

いうことも十分考慮されて、今後取り組んでほしいと思います。

以上をもちまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで12番、三山幸男議員の質問は終わりました。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を11時5分から行います。

午前10時50分休憩

.....

午前11時04分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） こんにちは。新生クラブを代表して、質問をいたします。

就任以来、3年が経過しようとしています。日夜、対馬市民のために、寝食を忘れ努力をされていることは、深く敬意を表します。

新年度の施政方針説明書に、市長自身が就任時の決意とでもいいますか、抱負が述べてあります。ちょうど3年前です。避けては通れない部分に果敢にメスを入れる。一つ、対馬じゅうに蔓延している根幹部分に巣くっている物や事を取り除く。一つ、制度疲労を起こしている行政の進め方を変える。全くその訴えに島民の皆さん、共感をされ、財部市政が誕生したわけであります。若いあなたに夢と希望を期待され、私自身も共鳴をし、賛同いたしました。

昭和の大合併、平成の大合併と、あの合併以来、大変な公債残がありました。いわゆる借金です。全国の自治体でも日本一だったと記憶をしております。たしか620億ぐらいでしたか、市長になって80億円前後の元利均等償還をきょうまでやってこられたわけであります。今年度もたしか72億、新年度予算でも64億が予算化、計上してあると書いてあります。成績優秀な市町村であれば、財政規模からしますと、二、三十億で足りるかもわかりません。新年度、いわゆる平成23年度末でも526億円ですか、まだ残額として残るということですから、人口3万5,500人ぐらいですから、1人当たり148万程度の借金があるということになります。だから、今この時期、市民と一緒に歯を食いしばって我慢し、汗を流しましょうと訴えてあります。

ところが、人間我慢には限度があります。第一次産業の不振、市長の言われる企業誘致が実現するわけでもなし、大変な失望感に変わりつつあるのが現状だと私は思っております。その間、いろいろな条件が悪くなったようなことも述べてはありますが、理解していただける人はごくごくわずかではないかなと、そんな思いもしております。

そこで、私が言いたいことは、市長以下幹部職員だけの一丸となる方向でなくて、職員全部がその方向に向かうと、このような機運がどうも見受けられない。そのことについては、過去にも

何回か苦言を呈したことを覚えております。

そこで、今回は、職員の人事異動について質問をいたします。

通告にも書いておりましたが、専権事項ぐらい私も十分理解をしております。幹部職員を中心に言うなら期間が短かすぎる。わずかに市長、3年ほか経過しておりませんが、部課長は何度変わりましたか。どの幹部職員にどの分野をだれに託しているのか、私にはあまり理解ができない。仕事は職員がいたします。組織がいたします。私だけならいいが、多分、全議員とは申しませんが、大半の議員がそう思っていると思っております。

私が思っていることを言いますと、俗に言うひな壇に18人ぐらい座っておりますけど、あえて替わっていないのは、保健福祉部長の扇部長ぐらいであります。目的と基準があれば、説明を詳しくしてほしいと思います。

次に、公共事業の年度内完成について、お尋ねをいたします。

対馬市の景気については、私がいろいろ語る必要は、もはやないと思っております。第一次産業の不振、先ほども言いましたが、企業誘致も実現しない。3年間で際立って評価されたことと申しますと、強いて言うなら行政改革の激動の国政の中で、提案型によるきめ細かな交付金事業ですか、事業費の獲得、また幻のトンネルの実現、国道382の大地—美止々間の調査費ですか、このようなことについては、高く評価をしたいと思っております。

21年度の決算の参考に申し上げますなら、五島市が61件、19億8,608万3,063円が繰り越し、壱岐市は31件—32件ですけど、CATVの45億を省きますと14億3,112万1,000円、対馬市は、件数で117件、40億162万2,235円、私ども決算審査の意見書でも、産業建設常任委員会の委員長報告でも、再三にわたり指摘をするも、一向に改善努力が見受けられない。中には緊急経済対策、きめ細かな交付金事業と、国策により遅れることは、物理的に無理な点も理解はできます。私にあえて言うなら、緊張感が足りないのか、職員が足りないのか、能力以上に事業箇所が多いのか、組織機構に問題があるのか、理解に苦しんでおります。答弁を求めます。

次に、比田勝港ターミナルビル、冷暖房機の設置についてお尋ねをいたします。

昨年の夏場の猛暑、100年に一回ぐらいと言われておりましたが、暑さが厳しい中、市長も記憶に新しいと思っております。その時点から苦情が続出、早急な改善依頼をお願いしたら、前向きに対応して12月に予算化はできましたよね。まだ言うなら、9月議会でターミナル利用料条例を審議をして、いろいろありましたけど、執行権者の言うとおりに条例は決定をいたし、10月1日から利用料金200円を徴収しているのであります。市長の言を借りるなら、おもてなしの心とよく使われますけど、どうして緊急な対応ができなかったのか。

ことしの厳冬の中、これも予報としては、厳しい冬が来るでしょうと、前もってありました。

当然私はできているものと思っておりましたが、できていない。C I Qの誘致に対して強力な要請をされたにもかかわらず、現場は随分な違いが私には見受けられました。市長、国際ターミナルは、二重ドアでないことも多分御承知と思います。入管・税関、検疫官の方々は、あの寒風吹きすさぶ中、職務に専念してありました。まことに気の毒の一言、私はあきれました。よく聞いてみたら、5台の室外機があるんですけど、3台が故障しているそうであります。修理を願い出たら、やりかえるから修理はだめだと、この実態をどう思われますか。私の感覚からするなら、理解ができません。早急な対応がどうしてできなかったのか、活性化センターの責任なのか、本庁の建設部の責任なのか、お尋ねいたします。

次に、上対馬町学校給食センターの建設についてお尋ねいたします。

私も現場に勤務したこともありまして、O—157、サルモネラ菌に対する食中毒事故が多発した時代がありました。今から十数年前だったと思っております。保健所から再三再四にわたる厳しい指摘があり、建設の計画がありましたけど、立ち消え、幸い現場で無事故に細心の注意を払って、老朽化した職場で頑張ってくれている職員の中には、職業病とでもいいますか、腰痛を訴える職員もおりました。

つい二、三年前ですか、議会も行政視察のお願いをして、現場の視察をしていただき、早急な対応を指摘したと思っております。学校の統廃合も計画はできておりますし、給食センターの建設についてのことを市長のお考えをお尋ねいたします。

あと、答弁によっては、一問一答で質問をさせていただきたいと思います。どうぞよろしく。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 糸瀬議員の御質問に答えさせていただきます。

1点目の人事異動というお話でした。その前段としてさまざまな問題があると。対馬じゅうに、もしくは職員全体に一体感がないのではないかと、それがまた人事異動に起因するのではないかとというふうなお話がありました。私は一体感というお話がございましたけれども、これらについては、一体感をどのように醸成するかということで、各センターも常に回らせてもらっていますし、伝えているつもりでありますけれども、ただ単に、俗人的な人事で一体感がないならば、そのような考え方を持った職員は、私はいかがなものかというふうに考えます。

この人事異動に関しましては、昨年6月議会において答弁をいたしました内容と重複いたしますが、改めて説明をいたしますと、まずもって、目的でございますが、対馬市の行財政改革大綱、並びに定員適正化計画に基づき、限られた人員と財源の中で、効率的で効果的に住民サービスを提供し、行政運営を行っていくということを目的にしているところであります。

また、そのときどきの必要に応じて、行政課題というものが変化していきますけれども、そのような行政課題に即応できるような組織の見直しというの、実施をしているところであります。

また、基準でございますけれども、これにつきましては、職員定数条例及び人事異動及び人事記録に関する規定に基づくほか、職員あてに意向調査を毎年実施しており、その意向も十分に参考に実施をしております。

また、一般的には、3年程度を一つの目安というふうにはしているところでもありますが、この多様化してくる業務の専門職化を考えると、部署によりましては、多少の長期化も十分予想されるところであります。また、それぞれの部署の意向や現状を精査し、行っているところであります。

次に、御通告にありました公共工事の年度内完成のお話でございますが、再三再四、指摘するも、その改善努力が見られないのではないかと御質問についてでございますが、平成21年度事業につきましては、約40億円の事業費を繰り越しております。うち、工事費につきましては、2月末現在に約81%の工事が完成し、ほかの工事についても年度内完成に向け、進めているところでございます。

御承知のとおり、21年度につきましては、3月補正及び専決補正予算による臨時交付金事業関係の補正、また国の経済対策関係補正など、多額の工事費を予算化したことが、繰り越し件数が多い要因となっております。

糸瀬議員御指摘の壱岐、それから五島との比較でございますが、比較的事業費の大きい漁港とか農林道、道路事業の21年度予算の補正額について比較をしますと、壱岐市と五島市に関しましては、対馬市は、13億6,400万と多額の事業費を年度途中で補正をして、工事発注していることなどが一つの要因であるというふうに御理解をいただきたいと思っております。

また、漁港・道路など通常の補助事業につきましては、国の補助金交付決定後でないと、事業の執行はできない状況にあり、特に当年度においては、調査設計等委託業務を必要とする工事については、委託業務発注完了後、その成果をもとに工事を起工し、一般競争入札での発注となるため、順調にいったら、年内12月ごろの契約ができるかどうかということになり、やむなく繰り越し工事となるのが、これが現実でございます。

また、最近、国においては、年度末の公共工事など予算を年度末に無理に使い切るという無駄が生じているのではないかと、予算の繰り越し手続が非効率を招いていないかなどの問題意識から、平成21年10月の閣議決定により、大幅な方針転換をなされました。無駄な予算執行の排除に掲げる一環ではありますが、繰り越し制度の一層の活用に向け取り組むこととされ、その繰り越し要件、手続等について、簡素で迅速に対応することが示されています。

要するに、通年的な景気対策を図るねらいから、予算を会計年度ごとに使い切る単年度主義というものから、複数年度にまたがる予算編成を検討すべきとの考えも示されております。しかしながら、本市としては、工事の早期発注に努めることは、常日ごろより指示をしているところで

あり、また、臨時交付金事業など、一部の工事について、指名競争入札の実施により、早期発注を図るなどの対応をしているところでございます。

平成22年度事業につきましても、今回の7号補正に記載のとおり、約26億円の事業費を繰り越し予定としておりますが、繰り越し予定箇所であっても、3月末まで、さらに工事の進捗を図り、繰り越し件数、金額を最小限にとどめる努力をしなければなりません。

各担当部署におきましても、必要最小限の人員で最大限の努力をしております。今後におきましても、事業の早期発注・完成を図る努力をしていきますので、御理解をいただきますようお願いいたします。

この問題につきまして、糸瀬議員のほうから、職員の能力がないのか、組織に問題があるのか、どこに責任があるのかという話もありました。センターなのか、建設部なのかというお話もございましたが、すべての責任は私にあらうかというふうに思います。

3点目の上対馬学校給食センター建設についての御質問でございましたが、この件につきましては、教育長のほうから答弁をさせていただきますので、御了承くださるようお願いいたします。
(「ターミナル」と呼ぶ者あり)

済みません。一点、ターミナルの件が。比田勝港ターミナルビルの冷暖房機の設置が、なぜ遅れているのかというふうな御質問でございました。国際ターミナルにおいては、既存の冷暖房装置が老朽化しており、ほぼ機能していない状態で、また国内ターミナルにつきましては、設備そのものがないため、特に昨年夏、記録的な猛暑で議員の御指摘のとおりでございます。施設利用者の皆様には、大変な思いをおかけしたというふうに思っております。

そのようなことを踏まえ、昨年12月定例会において、比田勝港の国際ターミナル、国内ターミナルの冷暖房機の設置予算を御決定いただきましたので、設計委託等の期間も含め、クーラーの必要となる時期までには完成させたく、準備を進めております。

この1月に替わりまして、この冬は大変寒く、例年のない寒波が押し寄せました。施設を利用する関係者、旅行者の皆様には迷惑をかけたというふうに思っております。市としましては、安全上、石油ストーブが設置できないために、電気ストーブ6台を準備し、できる限りの暖がとれるよう対応してまいりましたが、利用者の方には十分な暖房が確保できず、申しわけなく思っております。

緊急な対応がなぜできなかったのかという御指摘でございますが、国際ターミナルに関しましては、木造部分と増設したプレハブ部分とになっております。利用も建設当時と現在では、出入り口・経路が変わっており、木造部分だけでなく、建物全体で空調容量を計算した上で、機器選定が必要と考えられます。

また、国内ターミナルにつきましては、建設当時は、温風暖房機が設置されておりましたが、

その後は修理されず、平成12年の施設の改修時に障害者トイレが増築されたのを機に、暖房機器等が撤去され、現在に至っております。

今後は、国際ターミナルの待合室としての利用が考えられるため、空調設備が効率よく機能するよう、改修が必要と考え、両施設とも空調設備改修の設計委託が必要と判断したものであります。

工事発注としては、電気店からの見積もりもいただいておりますが、事業費が随意契約の範囲を超え、一般競争入札での発注となっております。今後の予定につきましては、先ほど申しましたが、設計委託等の期間を含め、クーラーの必要となる時期までには完成させたく事務を進めさせていただきますので、御理解をお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 上対馬学校給食センター建設について、お答えをいたします。

上対馬学校給食共同調理場は、昭和54年3月建築のウェット方式の調理場で、施設設備も老朽化している状況であります。建て替えの折には、食品への二次汚染の原因となる床からの水の跳ね上げを防ぐため、可能な限り床を濡らさないでさらに行き届いた衛生管理により調理ができるドライシステムを導入することが求められております。

建て替えについては、市長部局とも協議をし、給食調理設備の充実、学校の統廃合も考慮し、上県町管内、佐須奈小中学校、佐護小中学校ですけれども、も含めた配送区域の見直しを含め、検討いたしております。今後、関係部署、関係機関とさらに協議を進め、建築計画を進めていきたいと考えております。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 市長、今答弁がありましたけど、人事異動について、いろいろ言われましたけれども、私にしてみれば、私もそういう経験がありますけど、組織の活性化とか、職員の資質の向上、それから業務のマンネリ化とか、事故防止とかいろいろ私は目的があることは、よくわかります。ところで、一番私が市長に指摘をしたいということは、人間関係が1年半か2年ぐらいで醸成できるのか。先ほど3年ぐらいというお話がありましたけど、この部長クラスで3年ゆっくり座らせてもらった方はおられますか。それが一番私には問題なんです。やっぱりその部署に部長として座られたなら、この組織は私が責任を持って市長のために頑張ろう、市民のために頑張ろうと、そういう生きがいややりがいを感じさせるのも、人事じゃないでしょうか。

まだ言うなら、上級官庁の人間関係は、どういうふうにして形成される、そのようなことも希薄になるし、部下職員の上司と部下の絆も私は形成されないような気がして心配をしております。そこら辺、もう一回ちょっと答弁願えますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど私、答弁の中で3年と申しました。これは、おおむね3年の基準でございますが、職員について3年という考え方をしております。少なくとも部長さん方につきましては、3年よりも短い期間で回す予定です。それぐらいの能力を持ってなっていておられますので、対馬の経営について、いろんな形でやっていくためには、1年でも2年でも短くても、私は能力的には問題ないというふうな思いが部長さんたちには、特に思っております。

また、上級官庁との関連というお考え、それをどのように関係を構築していくのかというふうな御質問でございましたが、確かにまだ古い国、県、市町村という縦割りの形は残っておりますけれども、国のほうは、もっぱら今横串にそれを持っていこうとしております。まさしく今職員らが政策能力を高めていきながら提案をしていくという方向性に変わっているものというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 私、びっくりしました。そのすばらしい職員ということは、私もある程度評価はしておりますよ。しかし、市長、今1年ないし2年で部長クラスは替えるという話をされましたけど、本当ですか。間違いないんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1年、2年で変えても何ら問題はないというふうな資質をお持ちだというふうに私は理解をしております。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 私は、当初に質問しましたように、資質は評価をしておりますということを言いましたよ。だけど、行政は経年的にずっと続いていくじゃないですか。続いていくやないですか。だから、次の公共工事にしても関連性があって、人の問題、組織の問題、そして緊張感を持って引き継ぎを行っていく、そういうこととの絡みもあってお尋ねしたけど、十分そこら辺の能力は備わっているということですから、あえてこれ以上私は言いません、人事については、もうどうぞ専権事項ですから。ただ、市民の負託を受けて100%、先ほど答弁がありましたように、効率的・効果的な行政運営を責任を持ってやるということですから、期待をしましょう。

次に、繰り越し事業について、先ほど答弁がありましたし、私も参考までに近隣3市の資料をとっていろいろ勉強してみました。それから、市長が答弁がありましたように、繰越明許費については、閣議決定の話までされましたので、私も久しぶりに勉強してみましたよ。確かにそう書いてありますよ。確かにそう書いてある。私が市長にお尋ねしているのは、突出しているじゃないかということを書いておりますから、それがどういう原因なのかと、やはり当初に申し上げま

したように、マンネリ化した行政にメスを入れると、こういうことも言っているわけですから、私も期待をしているし、繰り越しが少ないにこしたことはない、年度内完成が原則ということは十分承知の上だと思っております。ただこういうふうにして、あえて駆け込みとしてやるには、いささか問題があるんじゃないかと、それも十分私は理解はしておるわけです。しかし、先ほどから言いますように、ここまで冷え込んだ中で40億はあまりじゃないかと、これはできるだけ少なくして、市民のための経済浮揚に回していくと、このような考え方はどうですかということ、私は聞いているんですけど、もう一回、お願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど申しましたように、壱岐・五島のほうでは、その漁港とかさまざま大きな事業について、国の補正に手を上げていないという実態がございます。私ども長崎県下でも、私どもだけがほとんど手を上げて取り組んでいこうということで、職員も頑張ってそれに採択に向けて動いたこともございます。

そういうふうな部分が13億とかいう金額は、間違いなくほかの市とは違ってあるということも、御理解をいただきたいというふうに思います。

年度内完成と、確かにそういうふうな部分はありますけれども、では、その年度内完成に向けてした場合、職員のほうが新たな事業というものをそのときに年度内完成が難しいというふうな見通しに立ったときに、萎縮してしまったら何も事業は先に進まないという悪循環にも陥るといふふうな思いも思っております。そういう意味におきまして、御理解をいただきたいと思っております。決して、これで年度内、全くその事業をしないということではありませんし、少ないながらもしっかりと補正をして、それをこなしていこうというふうなことであります。その点の御理解をいただければ、幸いに思います。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 私は、市長、事業費を獲得してくるとか、交付金をほかの自治体より余計もらおうと、できるだけ採択をしていただくと、そういう努力は高く評価をしているんですよ。

それじゃお尋ねしますが、明許繰越のこの理由は、市長、見られましたか。一件一件、見られました。新しい69件、70件、26億のこの理由について、つぶさにつまびらかにこう理解してありますか。多分忙しすぎて、そうじゃないんじゃないかと私は思いますけど、どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 一件ごとの繰り越し理由に至る途中経過というものは、正直理解はしておりません。繰越明許費要請等々が出てきた段階において、繰り越し理由を見させていただくというふうなのが実態であります。

それぞれ事業によりましては、繰り越し理由は違ってきております。当然、先ほどの答弁で申し上げましたように、交付決定後、設計委託等に時間を要する問題、また、計画の変更によって工事発注がどうしても遅れていく問題等々が、それぞれ事業ごとにあるかというふうに私は理解をしております。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 私は、この資料をいただきましたが、いただいてびっくりしたんですね。どうしてかと。多分、市長もびっくりされると思いますよ。当初予算の金額が繰り越しにそのままそっくり上がっているのが、相当件数ありますよ、相当件数。69件、全部はもらっておりませんが、私は、そのようなことがもしお許しができれば、あなたがその漁港その他について努力をして補助事業をもらっているということですから、よければ部長のほうにお尋ねしても、お許しが出ればですね。といいますのは、今まで再三再四、産建の委員会、決算審査のときでもそうですけど、このようなことをすると、新年度の事業とダブって、いわゆる田舎言葉で言うなら、おうぶって年度内できんのやないかということのを再三言っておりましたが、そこら辺はどうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 先ほど申しましたように、21年の10月の閣議決定があった段階から、今財政のものづくり込み方といいますか、見方というのが変わってきているというふうに私は理解をしております。単年度主義を放置しないと、今のこの20年来、ずっと経済不況の中にいる日本を脱却できないという国の方針だろうと思いますけれども、そういう意味において、この繰り越しというものに逆に国のほうは、簡略化することによって、繰り越し手続、繰り越し事業というものを逆にあえて認めてきているという実態も御理解をいただきたいと思います。

事業ごとの詳細につきましては、担当部長のほうから、答弁をさせます。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 私も一々事業箇所について、これはどうかこれはどうかと、理由が書いてありますから、十分理解できますけど、結局21年度繰り越しとかそういうもので、いわゆる手いっぱいということで繰り越しをせざるを得ないというのが実態ではないかというような、金額がそのまま当初予算から繰越金額にきているじゃないですか。3,000万でも5,000万でも、使えれば、使ってやれば私は何も言うことはないし、そして、繰り越しせざるを得ないこともよくわかります。

私は、許しが出ましたので、農林部長のほうにちょっとお尋ねしてみたいんですけど、やはり担当課として、何とか今までの悪循環をできるだけ解消していこうと、そういう努力、機運というものはお持ちでしょうかね。

○議長（作元 義文君） 農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君） 糸瀬議員さんおっしゃられるように、その機運というのは確かに私たちも抱いているつもりでございます。

それと、まず先ほど21年度のその繰り越しの関係でのことだろうと思うんですけども、阿連漁港につきましては、平成の23年度に荷さばき所の移転を計画いたしております。それとこれに合わせまして、24年度に浮棧橋の設置を計画いたしております。そのことで、それに向けて、今現在鋭意整備中でございます沖の防波堤を、平成21年度は約1億9,900万円、平成22年度は約1億3,000万円を投入いたしまして整備を進めているところでございますけれども、確かに糸瀬議員さん言われるように、工事がちょっと遅れていると言いますか、若干重複いたしまして、負の連鎖が生じて繰り越しになっている事実はいなめないところでございます。

しかしまた、それをできる限り繰り越し日数等を縮めて年度内完成、また今後はこういった繰り越し等を極力少なくするように一生懸命に頑張っていきたいというふうに考えておりますので、どうか御理解くださいますようお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 部長、ありがとうございます。そういう意気込みを、私は感じたいと思って質問をしておりますので、ほかの課についても皆さんどうか市民の皆さんも非常に期待をしてあるわけですから、よろしく願いをいたします。

ターミナルの件ですけど、できる方向で市長、指名入札でも私できるのではないかというような思いも持っておりますけど、先ほどの答弁では予算要求とか設計とかそういうことで時間がかかるような話をしてありましたけど、予算要求をした時点である程度の設計と言いますか、どういう手間がかかるかとかそういうことはわかると思いますよ。それで金額を出すわけでしょう。要求するわけでしょう。全くコンサルか何かに金額を出してもらってするんですか。私、さっきの答弁ではちょっと納得がいきませんけど。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この電気に関する件につきましては、職員の方でそのような資格を持っておりません。以前から電気事業関係につきましては、外に発注をさせていただき、そして設計を組むというのが通例でございました。で、そのあたりはしっかりやらないと、いろんな安全上の問題が出てくると思っておりますので、御理解いただきたいと思っております。

また、入札の件がございましたが、金額に応じてこの件については一般競争入札で物事は進めていきたいというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） そうですか。いろいろ私もよけれと思って質問をしよりますけ

ど、すべて否定をされておられますが、私非常に残念ですね。やはり、前向きにできるだけ公共工事を出して、経済浮揚を図ると、それが基本的な考え方やないかと、私そういう思いを持っておりますけど、次に給食センターの方に移りたいと思います。

教育長の方から答弁がありましたけど、再三教育長から答弁はいただいておりますけど、市長、この給食センターの位置づけ、これはどういうふうに考えてありますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 教育委員会の方からこの上対馬学校給食センターの建て替えということが上がってきた段階でしっかり取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） ということは必要性は認めてあるわけでしょうから、教育委員会が要望を要求すれば予算化するということですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） そのように考えたいと思いますけれども、そのときどきの財政状況等も勘案し、しっかり取り組んでいきます。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） そのために計画性を持った振興計画なり過疎なり何なりと位置づけをちゃんとしてもらえますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 過疎計画においては既に計上を確かしておると思います。振興計画につきましては、3年のローリングでやっておりますので、そのときどきで計画を組み立て直しの中に入ってくれば、その年次で財政等にもらみながらやっていきたいと思っております。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） 残り時間が少ないですけど、総体的にお尋ねをいたしますけど、市長、23年ですか、離振の計画も切り替え時期を十分検討し、24年でいっぱいということですので、この点については先般2月の長崎新聞にありましたけど、前にここにおりました田中記者がいろいろ書いてありましたけど、これは目を通されましたでしょうか。

私もこれは素晴らしいことだと思っておりますので、どうか切り替えまでにはいろんな提案をして対馬のためになお一層努力をお願いしたいと思っております。どうぞよろしく、答弁してくれるなら、最後に意気込みを。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、離振法の改正ですが、25年3月に失効します。今、庁舎内にも離島振興法改正に向けてのプロジェクトチームを立ち上げております。それぞれで、今抱えている

問題をどのように離振法に載せ込んでいくかと、ただ単に今の事業を、既存の事業を拡充するだけではなくて、今この離振の中に盛り込まないといけない問題というのを、そして国境離島ゆえの問題等々を今積み上げをやり始めているところでございます。恐らくこの会期中からもまた会議はあろうかと思えますけども、そのあたりの意見というものを十分にこの五、六月がまずもって第一段階目の勝負かなと思っておりますので、そこに反映をしていきたいと思っております。

私自身、2月24日に東京の方の離振法改正の検討会議の方に呼ばれて言っていました。そちらでも恐らく10数項目にわたって提案等もさせていただいたところでございます。電話でもまたその後、いろんなあれが出てくればどんどん全国離島振興協議会の方に情報を出してくれないかというお話もございますので、そちらにしっかり取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（作元 義文君） 14番、糸瀬一彦君。

○議員（14番 糸瀬 一彦君） ありがとうございます。市長、3月3日に私公文書をいただきました。その中に、指摘と言えば指摘です。小さいことかもしれませんが、非常に残念、対馬市長、松村良幸様と書いてありますけど、このような文書が出ること自体がおかしいじゃないですか。

以上で、私の質問を終わります。十分緊張感を持ってやってください。

○議長（作元 義文君） 以上で、14番、糸瀬一彦君の質問は終わります。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時、休憩します。午後は1時から開会します。

午前11時54分休憩

.....

午後1時00分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。黒田昭雄君、阿比留梅仁君から早退の届け出があつております。

10番、小宮教義君。

○議員（10番 小宮 教義君） 市民の声を活かすということで頑張っております10番議員の小宮教義でございます。私の持ち時間はたったの50分でございますので、よろしく願いいたします。

私の前にきょうは糸瀬議員が大変頑張られましたので、私はそれに続けるかどうかはちょっと疑問ですが、頑張らせていただきたいと思います。

私は、こういうふうな風貌でございますから、特にこの頭の色がこういう色をしておりますんで、よく市民の方から、小宮さんはもう70に近いかとよく言われるんですよ。いえ、違いま